

津波発生を想定 バスタオル使い避難を促す訓練

(2022年11月9日 NHK NEWS WEB)

「世界津波の日」の5日、北谷町の海岸では、津波が発生したという想定でサーフィンを楽しむ人々にバスタオルを使って避難を促す訓練が行われました。

この訓練は、津波警報のサイレンの音や防災無線の呼びかけが聞こえにくい場所でも、目に見える形で避難を促せる「津波フラッグ」としてタオルの普及を進める男性が企画したものです。

北谷町の宮城海岸で行われた訓練には、サーファーなどおよそ20人が参加しました。

訓練では、「津波フラッグ」と同じ、赤と白の格子模様にもめられたバスタオルを陸上から振って、沖合



にいるサーファーに合図を送ると、気づいた人たちが次々と岸に戻ってきました。

今回の訓練を企画した自営業の長田純一さんは「そもそも『津波フラッグ』を知っている人が少なく、置いてある場所も少ない。このタオルを知ってもらい海に行く際には持って行ってほしい」と話していました。

(2) 津波フラッグの仕様等
津波フラッグの仕様及び運用については、予報警報標識規則(以下「標識規則」という。)に以下のとおり定められている。

- 旗の色彩： 赤と白の格子模様
- 旗の形： 方形(四角形)
- 旗の使用：

赤	白
白	赤

- ・ 津波警報等が発表されたら、その伝達のために直ちに用いる。
- ・ 津波注意報、津波警報及び大津波警報の伝達はすべて同じ旗で行う。
- ・ 津波警報等の切り替え及び解除の際は、旗による伝達を行わない。

● 四角形 ● 長方形を4分割した赤と白の格子模様 ● 縦横の長さや比率に決まりはない。海水浴場等の広さ等を踏まえて判断するが、遠くからの視認性を考慮して、短辺100cm以上が推奨される。(『津波フラッグの活用の留意点〜使用する自治体や関係機関・団体の皆様にとって頂きたいこと〜』より)



津波フラッグによる津波警報等の伝達(イメージ) (公財)日本ライフセービング協会提供

we support ↓
RQ
災害教育センター
MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援「すけまきた」しんぶん

「すけまきた」とは宮城県登米市あわりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

NOVEMBER
11
2022

資料: NHK NEWS WEB、「津波フラッグ」による津波警報等の伝達に関するアンケート(令和2年6月(気象庁))、「津波フラッグの活用の留意点〜使用する自治体や関係機関・団体の皆様にとって頂きたいこと〜」(令和3年8月(気象庁))